

「新しい公共」の一端担う

建コン協九州支部と共助研 中山間地域支援で勉強会

建設コンサルタント協会九州支部(山本洋一支部長)・九州郷づくり共助ネットワーク研究会(共助研、針貝武紀会長)は27日、福岡市のARRビルで「中山間地域の郷づくり」我々には「新しい公共」第3回勉強会と題し、共助研による郷づくりのための仕組

み・活動・体制に関する提言をまとめた。中山間地域支援を国土保全プロジェクトと位置づけ、4項目の活動目標を掲げて、「新しい公共」の一端を担うとしている。

冒頭、針貝会長が「準備期間も含め約3カ年の活動を総括、意義深さを確信した。これまでの成果と浮かび上がった課題を心まえ、更に取り組みを活発化させたい」とあいさつ。提言書の内容が説明された。

それによると、様々な「つながり」の再構築による共助のネットワーク構築を理念に、①建設コンサルタントとして中山間地域支援の活動②国土保全としての中山間地域支援の評価システム構築③行政・学識者との連携による中山間地域支援の仕組み構築④建設技術者の役割創出と生きがいを生み出す活動目標として設定。結果活動、広えの活動、拓く活動を

本柱として推進、「新しい公共」の一端を担うことを強く希望していきたいとしている。新しい建設コンサルタント像の構築、新分野開拓も視野に入れていく。

熊本学園大学の小川全夫教授、豊後大野市企画調整課の田北樹代表らの参加を得て、厚生課長、小野剛志主任、新現役の会の古賀直

た。

